

正
一
付

東
洋
文
庫

特別
~13
4370
1



何^{なん}一^{いつ}。世^よ奇^き怪^{かい}れ物^{もの}をあら^{あら}免^{めん}玉^{たま}
指^{さし}目^めと怒^{いか}。年^{とし}や^やく^くは^はか^かい^い三^{さん}生^{せい}
を著^{あつ}一^{いつ}函^{ふん}の底^{そこ}お^おさ^さじ^じ。そのら^らこ
こ^こわ^わい^いち^ち者^{もの}あ^あい^いち^ちお^おい^いし^し。ち^ちも^もほ^ほぐ
け^けぞ^ぞな^なつ^つと^とあ^あれ^れか^かう^うお^お。この秋^{あき}ひ^ひ
と^とその^{その}強^{かぢ}と^と道^{みち}と^と持^{もち}め^めら^らり^りえ
免^{めん}世^よお^お廣^{ひろ}め^めよ^よと^とす^すま^まひ^ひら^らな^なあ^あり。

ほ^ほも^もい^いか^かひ^ひぐ^ぐく^くい^いと^とが^がう^うく^く
筆^{ふで}跡^{あと}と^と免^{めん}救^{すけう}日^{にち}の^のう^うら^らお^おま^まの^の口^{くち}を^を
あ^あら^らび^び吹^ふ一^{いつ}と^と金^{かね}い^い書^{かき}と^とか^か一^{いつ}ぬ^ぬ。世^よの^の
人^{ひと}常^{じょう}乃^のの^の強^{かぢ}い^いと^とひ^ひと^とき^き怪^{あや}
と^と事^{こと}と^との^のま^まほ^ほく^くあ^あり^り。甲^かと^と
ま^まい^いこの^{この}癖^{くせ}あ^ある^る。あ^あら^らく^くそ^そも^もた^たら
あ^あら^らび^び。ま^まら^らう^うら^らや^や免^{めん}ま^まく^くあ^あり^りと

あうのう

かかるとは。又これほのあはれをうら
す。てかうやうに怪談と集む。是
も一かうに強みとむ。海を海
小をうらとや。ゆとに君子のあは
あはれいふあそ。あわれども又ま
うらあはれ。心理を説く。愚蒙
とみらびく。及て奇怪神異の

感毎一をす。といふ。あはれ。世の児女
れ。孝この書。母感ありて。神仙意
報のむか。うらと。成倍。と。
君父忠孝のほ。む。を。い。ま
。その昔ものあはれ。ひ。そ。あ
。い。もの。戒。い。え。す。べ。く。あ
ら。い。身。成。は。く。む。媒。あ。せ。べ。

あはれ

この書すしすこし記せしむ
なるらめやせしむ

え録し亥の冬霜月日

義端謹序



玉振菊抄目錄

中一卷

序

養老游付^{やうらうのゆひ} 且^ま法園司^{のほくわんし} 孝行^{かうかう} 抄^{しやう}

續^{つづ} 經^{きやう} 猿^{ざる} 記^き

圖^ず 表^{ひょう} 此^{こゝ} 牛^{うし} 鬼^{おに} の事^{こと}

信^{しん} 列^{りやう} 立^た 綱^{かう} 大^{だい} 地^ち 下^げ 沉^{ちん} 大^{だい} 題^{だい} 吾^{われ} 之^の 事^{こと}

才二卷

赤井強九郎土佐坊出異子事

轅首者知三世事

親子奇遇付板田高姫姑の事

三浦蒸次郎討死付和尙道歌事

狐人よ化く貴狐吟神物成る事

才三卷

畜生塚

老蘇蘇繪る夜行の事

澤井何某子先才某が親を冥験事

松永彈正墮地獄事

才四卷

少年若れ契里の事

岩船何某少の巻一其法傳授の事

少年遊翰如縁

雲林院素平二條后出異れり

松本主膳危難を脱付親敵り

才五巻

川本黒河出異陣依こ本先陣り

山伏再生して然を報ずるり

將軍義村公於落付焼火奇瑞事

碓礮山白狼れ事

才六巻

山中の伶人付小山金園花葉のり

水精の教珠

屠牛れ意報の事

三位國孝奇病れ事

松尾与一郎異僧よ途燈花見如り

死後の遊魂為愛母

才七卷

白鬚社壇諸神會合しり

阿蘇仙境付遊女遊入事

鬼神入神中事

目錄終

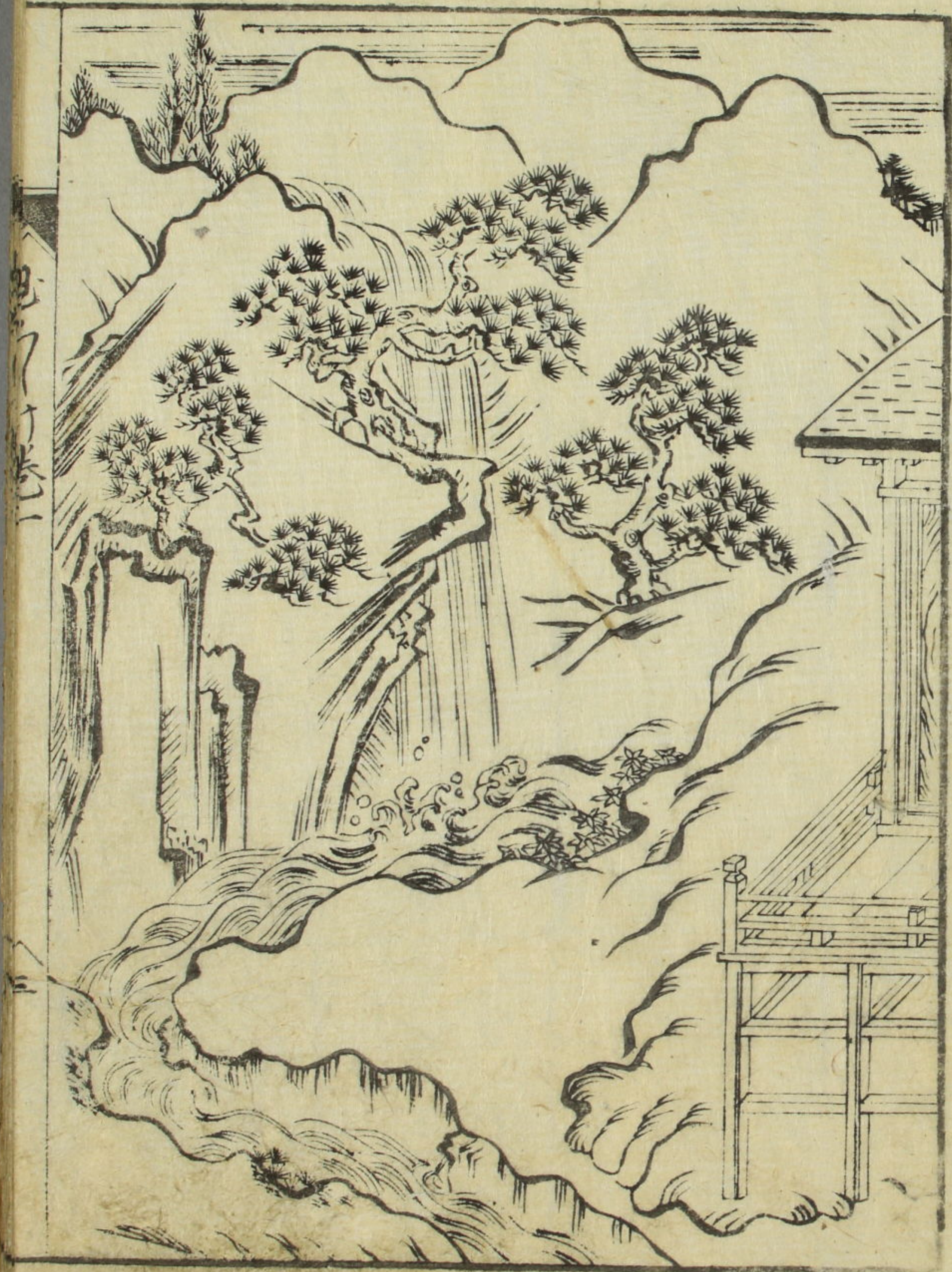


玉くけ巻之一

○養老の滝

後陽成院の朝正中
英法園本柔の初小景野
何系りとの友縁あり
武家の末族あり
一が口歳
老阿婆小砂と孤
かり
歌行と入
因縁
一をれ
生長の後系
終まのかり
西園寺殿に奉
公一
みきり
まら
あり
阿蘇郷
老母のみ
よとつ
り
好
み
事
阿
ま
急
ぎ
ゆ
る
一
と
告
越
せ
れ
ば
主
君
中
暇
所
ら
い
加
に
越
く
あ
よ
い
阿
蘇
岳
秀
台
兵
威
大
ふ
あ
ら
い
徳
お
に
命
ト
伝
孝
勝
家
等
氏
奏
さ
せ
し
也
英
法
尾
津
中
心
合
戦
岡
津
山
と
れ
中
一
景
中
一
づ
つ
ふ
お
持
き
ら
お
ま
か

本七卷一



上より入瓶子土器の住者氏列々鬱然一々系統
つとあわしめて美人に白く君々此國の玉司とて
来ら本も郡の土氏なり何ゆえは言きにのり
あんとつと美人とてつとめさらしに匹夫ありて
つとて孝の法冥冥とありては港の下にはき来
きるとつとつとと極柳親善の靈場ありと神心法
後の怨怒あり能まことつとつとの人ありてつと
その由事ありつとつとつとつとつとつとつとつと
を皇の所字に當玉本果の教一人の民あり極りて
老母と孝あり老母つとつとつとつとつとつとつと
新と極極つとつと老母とつとつとつとつとつとつと

つとつと入瓶子土器の住者氏列々鬱然一々系統
民とつと入瓶子土器の住者氏列々鬱然一々系統
あわしめて美人に白く君々此國の玉司とて
来ら本も郡の土氏なり何ゆえは言きにのり
あんとつと美人とてつとめさらしに匹夫ありて
つとて孝の法冥冥とありては港の下にはき来
きるとつとつとと極柳親善の靈場ありと神心法
後の怨怒あり能まことつとつとつとつとつとつと
その由事ありつとつとつとつとつとつとつとつと
を皇の所字に當玉本果の教一人の民あり極りて
老母と孝あり老母つとつとつとつとつとつとつと
新と極極つとつと老母とつとつとつとつとつとつと



いそ

乾坤變化幾何論

好是子山萬水身

窮去投林何擇木

木登元峯問帝津

疎もどろろと題とのよから様の賢化ありし結まへ
たさぬ雅も君多智はてあつて同僚の末に富るも
とまるとも氏教つよとせらるるをくりにけむ排排も
事にしも。あつとども君もさうしあまありし事何
と。さうしをさあつてさうのひんりのあつて。袁昂の成
事ありあつてしつと神のくまも君もさうし志望の今
すもあつて先世も山王の仲なり。さう守つて又庚申の
交ちあつていかりし事。袁昂の成事よとせしは

かりとさうしつとのいひくもあつてしつとさうしつと
あつとさうしつと人如形是ありしつとさうしつと性
何り。公海もさうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
たつらに公海もさうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
又あつていさつと公海もさうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
公海もさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
情欲もさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
とり。鳥もさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
色もさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
物もさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ
あり。あつとさうしつと公海し。秋氏さうしつと公海し。秋氏さうしつとさ

僧徒よその回指(かえりさし)一(ひと)まうし。哀(あはれ)節(せつ)ゆりせにささげし
うんとそそねらるるちふ入(いれ)僧徒(そうた)をあのめ内典(ないてん)弁(べん)ぢ氏(ぢし)
備(び)じらに辨(べん)釈(しやく)理(り)らるるふしとて狂(くる)志(し)驚(おどろ)致(いた)せしと
つふ半(はん)明(めい)し。あつ色(いろ)ども天(てん)性(せい)物(ぶつ)疎(そ)疎(そ)しとせりくらひ
くひありささく小兒(せうに)のまをさ小(せう)僧(そう)たり。赤(あか)代(しろ)の紫(むらさ)衣(え)と
懸(か)りて捲(ま)上に(うへ)に座(ざ)し。西(さい)衣(え)の達(たつ)てありらる僧徒(そうた)とせ
とめ。まさく白(しろ)布(ふ)の浴(ゆ)衣(え)氏(ぢ)ま。暮(く)不(ふ)よ屋(や)をさく親(おや)死(し)
おん亡(な)息(いき)ありとて兒(こ)童(どう)をせどし。或(ある)阿(あ)を世(よ)世(よ)らる
体(てい)の折(お)みつとさく改(か)新(しん)と名(な)つせ。あつ回(まわ)ち撥(は)けさし
と備(び)あよとさく伏(ふ)虎(こ)ありとつふ。あつのささくま
たさういごうごう僧徒(そうた)つとみあつと神(かみ)小(せう)僧(そう)とて遊(あそ)ぶ

出(い)さんさん神(かみ)折(お)あしそのああり制(せい)とさくさし
うとさく哀(あはれ)節(せつ)まさくひあをたのしみ凡(たふ)系(けい)よあま
とて侍(さむらい)文(ぶん)紙(し)つねとせしをのび。あつとさくまあつと
く折(お)用(よう)ひつららにもあつび。又(また)書(か)もささくひゆりて
あつとさくのささく。さつにその一二(いちに)そ紙(し)あつひ

山(やま)館(くわん)燈(とう)

船(ふね)よりいさびとみらるる僧(そう)の
あつりせりかきりて大(おほ)の鏡(かがみ)

遙(とほ)岡(おか)朝(あ)光(みつ)

あつらつむらかるとおんかのふも
あつらつむらかるとそのまがさつ



雷仲

百億分身隨處遭

堪幹サ日月波腰曹

教と邪く如来地

六出園成放白毫

あり阿那含高氏まひととけとて佛焉ん 諸のあや
りあり。袁郎柔もくくるとおわしかりとて。体倍一
む指とあつたり。仏前よ流と辞世の福と受合受り
あつらうとく息繼たり。阿那含をありめその亡去人間
にあつばよくくくくもくもく。倍倍之より細よれはつた
様ありとぞある。その阿那含くくめめり。其後つとく
又その項氏ぞく苦み。とよと二百の後は在佛氏
あり付属とてこのまみ。すくくつとみか本とてつとく

どつとくあり。その後世は大同天下を政務の
阿那含民家よ産らるりのあり。阿那含猿猿懐よつた
爰もく男子と誕生しきり。父母ありとくあり。も
そとてび。年くわらよとく。子智優者ありとく。生れ
か。其法氣徳とそんじ。つとみ肉とわらとく。出家
を遂んと修み。父母その志よとく。法花にに送り出
家り。わらとみ。とつた。佛は佛徳縁のこ
つた。ありとく。め。法つた。の阿那含ありとく。バ。後人
あつた。そのえ。法花中。其開ふと。其室も先親
のて。盤るの上。母産と。後世。と。あり。あ。阿
あ。と。の。び。なる。素。地。り。と。と。と。と。

左の何れもゆへにありとみすぐるも大城へゆりつりせり。
庭殿も是らつりあり申あやとせらるるも業を。勢くは
敵兵極し徳兵へよせ行せり。又氣をたありて大旗あり
勢も何れ業申りありんたふのそびしあふ瀬をさすぶ
各宿世の業因あり。さづよあも列女業ありい列女は
まじしとけつとせり。二ひびくもまじしとせり
やうつりせり。その同にいつりてもまじし大旗あり
あつら勢もあふゆせり。勢を戦にあらはし何れも
左卿とやあり色の懸は況しあるべし。あつら
うらへは資材報具はあへおころびあせまひせり。
そのつごり人よ風下の徳亡に異あつら。その後又

つらあんとあつら。その流のびりせりと鳴経
しせあせ。まじし此のあふ家も本も一同は大地を
庭小況せり。又下と忽大旗あり瀬をさすぶ
瀬とありぬ。うも板十あつら。右本とものらに況
つら木橋もあつら。さすむいしは列女あり
らどめ瀬の業あり。うら一板は板とせり。うら
とありし。板もうらあつら。を卿の志もすけ
うらあつら。うらあつら。うらあつら。うらあつら。
大旗あつら。うらあつら。うらあつら。うらあつら。
海へ瀬も瀬もうらあつら。うらあつら。うらあつら。
瀬のたつら。うらあつら。うらあつら。うらあつら。



あつにあらむ。じう強人あり。奴をいよ。惚れあつて
惚れと刺きわはる。その不腫あつとせは。惚れをまつらむ
の中おき入。卒の茎とつらむ。そのけとむらつき
せむ。その腫さる。あよ。愈まは。強人は。とる。人よ。惚れ
刺せ。たろ。小卒の。茎と。つらむ。治め。と。り。か。虫。類。を。ね
毒。あ。つ。治。さ。る。あ。よ。愈。ま。は。強。人。は。と。る。人。よ。惚。れ
る。知。ら。ん。あ。つ。と。り。愈。ま。は。惚。れ。人。を。ね
感。ま。は

玉うげ巻之二巻

母 10 18 15 4 0 2

あらにあらじ。じう強人あり。敵をいひはねて
 格闘と刺きけり。その不勝あつとせむ。格闘をまつらふ
 の中みえり。入卒の登とつらふ。そのけとわらう。つぎ
 せむ。その勝とつらふ。愈まむ。強人はとらふ。人は強人
 刺せたり。小卒の登とつらふ。治めとつらふ。かく虫類とつら
 毒ふ。あつとつらふ。治めとつらふ。人うとつらふ。つぎ
 ら。何れとつらふ。あつとつらふ。命とつらふ。人をつら
 感しきむ

玉うげ巻之一巻

玉うげ巻
 一巻

